

インターバンクの声（2014 年 10 月 1 日）

木曜日の欧州中央銀行（ECB）理事会や金曜日の米雇用統計の発表を控え、無理に新値狙いを試すような動きも減って来るだろうと思われていたが、結構荒い値動きが続いている。欧州市場の朝早くに発表された9月のユーロ圏消費者物価指数が、事前の予想よりも弱かったことで、ユーロは対ドルについて1.26ドル台を割り込んだ。ユーロが最後に1.25ドル台で取引されていたのは、実に2年以上も前のことだ。ドルは対ユーロで上昇したことに加えて米国債が下落し、金利が堅調となったことから、対円でも上昇展開となり109円85銭に到達した。110円達成も時間の問題と思われる勢いだったが、ニューヨーク市場の序盤に集中して発表された7月の米ケース・シラー住宅価格指数、9月のシカゴ購買部協会景気指数、9月の米消費者信頼感指数が軒並み予想を大きく下回る内容だったことが昨日中の大台達成は見送りとなった。今日、明日のどこかの時点で、あっさり110円達成となりそうな気もするが、昨夜の米経済指標に弱い数字が並んだことが不安材料だ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。